# 四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓　自主・自律　協同

新座市立第四中学校学校だより　令和5年5月1日　第2号
TEL　048-477-6053　URL　www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon

http://www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon/


## 発展を続けていくために

校 長　鮫島　弘樹

古い畳の表をはがし、い草のよい香りがする新しい畳表を被せます。包丁のような形の刃物で、余分な畳表の端をザクザク切り落とすと、専用の特殊な機械を使って縁(へり)を縫い付けていきます。

私が小学生の頃、近所の畳屋さんの店先で、作業の様子をしょっちゅう眺めていたものです。職人さんの手さばきへの憧れと、使っている道具への興味です。

バカボンのパパのように、いつも頭にタオルを巻いた職人さんにはよく声をかけられ、可愛がってもらいました。

先日、随分久しぶりにその道を通ったところ、畳屋さんはなくなっており、そこには新しい一軒家が建っていました。

それを見た瞬間、職人さんとの交流だけでなく、その当時の生活や、近所に住む仲良しだった友達の顔などが次々とよみがえり、まるで映画「ニュー・シネマ・パラダイス」（イタリア映画の名作です）を観た後のような郷愁を覚え、しばし感傷的な気持ちに浸ってしまいました。

同じ土地でも、長い年月を経るに従って、建物やそこに住む人は少しずつ変化していきます。寂しくもありますが、それが街の発展につながっていくものです。

第四中学校の教室は、縦８メートル、横８メートルの真四角な形をしています。６４平方メートルという面積は、和室でいえば約４０畳に相当しますが、人数に対して決して広いとはいえません。

最もスペースを取るのが机です。今から２５年ほど前に標準の規格が変更され、それまでのものより縦、横ともに５センチずつ広げられました。

また、最近でいえばChromebookの導入に伴い、全員分の本体と充電器が綺麗に収められる保管庫が、各教室に設置されました。洗濯機ほどの大きさです。

そしてこの度、すべての教室に大型の電子黒板が配備されました。これまでの大型テレビと比べて、非常に多くの優れた機能を備えたもので、いわば、超大型タブレット端末のような機器です。７５インチあるので、従来の５０インチと比べると、かなりのサイズに感じます。

５０年近く前、第四中が開校した当時から見ると、教室は随分様変わりしたはずです。手狭になったことは否めませんが、エアコンの導入やICT機器の整備など、学習環境は格段に向上しています。このように、せっかく充実してきた環境が､宝の持ち腐れになってはいけません。

例えば電子黒板は、知識を確実に習得でき、これまでよりさらに思考が深められるような授業を実現するため、効果的に活用していくことが求められています。

街が発展し続けるのと同じように、学校もまた、時代に合わせて発展を続けていくものです。そのためには、私たち教職員自身が新しいものを柔軟に受け入れ、常に学び続けていく必要があります。

取り巻く環境の変化に対応しながら、教育の質をさらに高めていくために、全教職員で組織的に取り組んでまいります。